

平成20年度

文部科学省食育推進委託事業

子どもの健康を育む総合食育推進事業

〔報告書〕



山梨県教育委員会

目 次

○はじめに	スポーツ健康課長 今井 三千雄	2
○子どもの健康を育む総合食育推進事業に期待すること		
	検討委員会委員長 高橋 智子	3
○山梨県教育委員会の学校における食育の目標		4
○食育推進委託先一覧表・講演会内容		5
○子どもの健康を育む総合食育推進事業		
・甲府市教育委員会 琢美小学校		7
・笛吹市教育委員会 八代小学校		19
・南部町教育委員会 睦合小学校		31
・大月市教育委員会 大月東中学校		43
・韮崎市教育委員会 韮崎西中学校		53
○栄養教諭の配置に伴う「食に関する指導」の推進に関わる		
	アンケート全体集計結果	65

はじめに

食育とは、生きるうえでの基本であって、知育、徳育及び体育の基礎として位置づけられ様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと食育基本法に記されています。

今から約100年前に、食育が大切であるとブームになった時代があり、村井弦斎の「食道楽」という本が大変注目を浴び、「小児には徳育よりも知育よりも体育よりも食育が先き」と「料理心得の歌」を最終巻に掲げ「食育」を世に広めようとしていました。

その後、「食育」という言葉が長い間消え、そして気がつけば飽食の時代となり、近年社会環境や生活様式の変化に伴い、食の大切さに対する意識が希薄になり、朝食の欠食や偏った栄養の摂取等、児童生徒の食生活の乱れが目立つようになったことから、「食育」が大きな社会問題として取り上げられるようになりました。

このような状況の中、県教育委員会においては、学校長のリーダーシップのもと平成19年度から配置された栄養教諭、また給食主任や学校栄養職員などが中心となり、食に関する指導全体計画や年間指導計画を作成し、給食の時間を始めとして、学級活動や総合的学習の時間など教育活動全体において、また家庭や地域と連携する中で、食育に関する取組を行っています。

さらに、本県の学校における食育推進の発展に資するために、昨年に引き続き、栄養教諭が配置された学校を中心とした地域において、文部科学省の委託事業である「子どもの健康を育む総合食育推進事業」を5地域で受け、食育に関する取組や調査研究を行ってきました。

また、平成19年度に5名の栄養教諭を配置し2年が経過することから、配置校の教職員にもアンケート調査の御協力もいただきました。

この報告書は、子どもの健康を育む総合食育推進事業の実施内容を収録したものです。是非多くの学校で活用していただき、この報告書が、学校における食育ひいては健康教育推進のために役立てていただけることを願っています。

結びに、当事業を精力的に実施していただきました5市町教育委員会をはじめ、実践中心校、推進地域の皆様には、心から感謝を申し上げます。

平成21年2月

山梨県教育庁スポーツ健康課長

今井 三千雄

子どもの健康を育む総合食育推進事業に期待すること

食育基本法は、皆さんもご存じの「食生活指針」がその出発点となっています。1983（昭和58）年に農林水産省が「私たちの望ましい食生活」という食生活指針を出し、それは「日本型食生活のあり方を求めて」というテーマをもったものでした。そのポイントは、肥満予防、バランスのよい食事、特に米・牛乳を摂取しましょう、緑黄色野菜を摂取しましょう、脂肪、糖分、塩分は減らしましょう、朝食を摂りましょう、と今も言われているようなことが盛り込まれていました。この食生活指針を源に「食育基本法」は、平成17年7月15日に施行されました。その内容は、私たちひとりひとりが食べることの大切さを改めて見直し、健全な食生活をできるようにしていくことを目的としたものです。その食育基本法の前文には、“子供達が豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」を選択する力を習得し、健全な食生活が実践できる人を育てる食育を推進することが求められている”と記されています。

この食育基本法をうけて、平成18年度から22年度までの5年間を対象として、国民運動として食育に取り組み、国民が生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむことができる社会の実現を目指すことを目的として、文部科学省より食育推進基本計画が示されました。この食育推進基本計画をうけて、山梨県では、平成19年度に、「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」「地域に根ざした学校給食推進事業」が、取り組まれました。

そして、本年度平成20年には、「子供の健康をはぐくむ総合食育推進事業」として、甲府市、笛吹市、大月市、韮崎市、南部町を推進地域として取り組まれました。「子供の健康をはぐくむ総合食育推進事業」には、3つの大きなテーマがあります。テーマ1：教育課程における食に関する指導の充実のための取り組み、テーマ2：学校と家庭との連携に夕食に関する指導の充実のための取り組み・家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究、テーマ3：学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取り組みです。いずれのテーマにおいても、本年度、各地域において多くの成果が得られています。今後は、平成19年度から取り組まれている食育推進事業において得られた成果をもとに、山梨県全地域として更なる食育推進活動が望まれます。

子どもの健康を育む総合食育推進事業

検討委員会委員長 山梨県立大学 准教授 高橋 智子

学校における食育の目標

本県における児童生徒の現状を踏まえた課題解決に向け、県教育委員会では、次の4つの目標を設定し、その達成を目指した取組を推進していきます。

- 1 朝ごはんを毎日食べましょう
- 2 栄養のバランスがとれた食事をしましょう
- 3 「食」に対するマナー、感謝する気持ちを身に付けましょう
- 4 地域の食文化を知りましょう

各学校においては、児童生徒・家庭・地域の実態に即して、以下に示すような取組を行い、それぞれの目標の具現化を図ってください。

1 朝ごはんを毎日食べましょう

- 特別活動等を通して、望ましい生活習慣としての朝食の大切さを理解させる。
- 栄養教諭・養護教諭・学校栄養職員が中心となり、家庭との連携を図りながら、朝食の大切さについての啓発を図る。

2 栄養のバランスがとれた食事をしましょう

- 家庭科や保健体育科をはじめとする教科等において、栄養バランスの大切さについて理解させる。
- 栄養教諭・学校栄養職員や地域の関係機関等の専門性を活かし、食に関する指導の充実を図る。
- 給食実施校においては、学校給食を生きた教材として活用し、給食の時間や授業の充実を図る。

3 「食」に対するマナー、感謝する気持ちを身に付けましょう

- 給食の時間、学校行事、道徳、特別活動等を通して、食に対するマナー、食に関わる人たちに感謝する気持ちを育む。
- 各種通信、講演会、給食試食会等を通して、家庭への啓発を図る。

4 地域の食文化を知りましょう

- 総合的な学習の時間等において、体験的な学習を通して、地域の食文化に対する関心を高める。
- 給食実施校においては、地域の生産者等と協力体制を築き、学校給食に地域の食材を利用した献立、郷土食、行事食を積極的に取り入れ、地域の食文化に対する理解を深める。

これらの取組を推進するに当たっては、それぞれを関連させ、総合的に指導していくことが重要であり、そのための全体計画が不可欠です。

各学校においては、栄養教諭、学校栄養職員等、担当教員が中心となり、食に関する指導全体計画及びそれに基づく年間指導計画を作成し、全職員の共通理解の下、学校教育全体を通して食育を推進していくことが大切です。

食育推進事業委託先一覧表・講演会内容

○「子どもの健康を育む総合食育推進事業」

地域	実践中心校 住所	教育委員会担当者名 校長名	電話番号 電話番号
甲府市	甲府市立琢美小学校 甲府市朝気1-2-52	柏木精一 伊藤邦昭	055-223-7321 055-233-4809
笛吹市	笛吹市立八代小学校 笛吹市八代町岡780	鬼島和昭 稲木幹夫	055-265-4851 055-265-2021
大月市	大月市立大月東中学校 大月市大月2-15-11	鈴木要一 條々篤美	0554-22-2111 0554-22-2241
韮崎市	韮崎市立韮崎西中学校 韮崎市神山町鍋山1-1	輿石知也 矢巻令一	0551-22-1111 0551-22-1431
南部町	南部町立睦合小学校 南巨摩郡南部町南部4376	望月秀人 山田勇	0556-64-4842 0556-64-2043

講演会の開催

○「子どもの健康を育む総合食育推進事業」第1回講演会の開催

平成20年11月6日（木） 山梨県立文学館

講師 上智大学総合人間科学部教育学部教授 奈須 正裕先生

演題 「探究的に学び深める食と農の教育」

～学習指導要領の「探究」と絡めた実際～

○「子どもの健康を育む総合食育推進事業」報告会・講演会の開催

平成21年2月17日（木） 山梨市民会館

講師 東海大学体育学部教授 小澤 治夫先生

演題 「早寝・早起き・朝ごはん、テレビを止めて外遊び～

生活・健康・学力・体力調査の結果から見えてくるもの～」

「子どもの健康を育む総合食育推進事業」

- ・ **推進地域** **甲府市**
- ・ **事業委託先** **甲府市教育委員会**
- ・ **実践中心校** **甲府市立琢美小学校**

事業報告書

各テーマにおける、具体的取組内容や研究成果

1. 推進地域(甲府市) 実践中心校(琢美小学校)

テーマ1	教育課程における食に関する指導の充実のための取組
	<p>① 豊かな心と体を育み、自ら実践できる子どもの育成をめざし、学級活動や各教科、総合的な学習の時間において、栄養教諭と連携した食育指導の充実・実践に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・第3学年 学級活動「歯と体の元気大作戦」：6月実施(栄養教諭とのTT指導)・第4学年 総合的な学習の時間「昔の食生活について調べよう」：10月実施(栄養教諭とのTT指導) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div data-bbox="331 734 715 1010"></div><div data-bbox="866 734 1284 1010"></div></div> <p style="text-align: center;">3年の授業「歯と体の元気大作戦」 4年の授業「昔の食生活について調べよう」</p>
	<p>② 食に関する指導に関わる全体計画の検証と修正のための実践や学校における食に関する指導・実践の啓発に関わる情報発信を行った。さらに、実践資料綴りの作成や先進的に取り組んでいる講師を招聘しての教職員や保護者、地域に対する研修等の実施に取り組んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div data-bbox="284 1189 609 1429"></div><div data-bbox="683 1189 1428 1377"><p>・武蔵丘短期大学学長 藤沢良知先生による「食育の時代を迎えて」という内容で学習会を実施した。 「楽しく食べる子どもに」「学童期における食べ方」「健康的な食事のとりかた」等について丁寧な説明がなされた。 8月22日(金)実施:びゅあ総合</p></div></div>
	<p>③ 食育推進年間指導計画の実践と検証に取り組んだ。 めざす子ども像に向かって、各学年ごとに生活科、総合的な学習の時間を核として食育の年間指導計画に基づいて、実践に取り組み、計画の検証を行った。 本校では、食育事業を豊かな心の醸成の場ととらえ、以下のような考えのもと、諸活動を実践している。 『食に関心を持ち、自ら進んで心と体の健康を高める子』</p> <ol style="list-style-type: none">1) 食に携わる人々に触れ、相手を思いやる気持ちや自然を大切にしようとする気持ち、またそこから生まれる責任感や自主性などを身につけ、豊かな心を持つ子ども。 (健康的な心の育成)・・・感謝の気持ちを持つことによって。2) 周りの人と豊かな心で接することのできる社会的態度や適応性・協調性を身につけた子ども。 (社会性の涵養)・・・望ましい食習慣を身につけることによって。3) 食と健康の関連性に関心を持ち、自己の食生活について、またそれに関わる日常生活のあり方について考え、実践していくことができる子ども。 (自己管理能力の育成)・・・正しい知識や判断力を養うことによって。 <p>④ 食事のマナーや、食品・料理についての知識、作ってくれている方への感謝の心等を学ばせることができるように学校給食を積極的に活用した。</p>

テーマ2

(1)学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組
 (2)家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

- ① 7月に生活リズムについて、アンケート調査を実施し、わくわく食育だよりを通して保護者に知らせ、意識の高揚を図った。さらに、11月には、本研究実践の取組に関わる結果の検証のためにアンケートを全校児童と保護者を対象に実施した。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」に関する内容であったが、食生活や食に関する基本的な生活習慣を見直すためや、今後の実践への参考資料となった。なお、考察については、昨年6月に実施した調査との比較検討を行った。
 - ・食生活や食習慣についての内容であったが、本校の基本的な研究理念に関する項目について特に取り上げ、関係機関の協力を得る中で考察し、研究実践の結果の検証に役立てた。
- ② 食育に関する資料、研究・実践した内容等について、学校から家庭や地域に向けて、「わくわく食育だより」や「わくわく食育資料」として配布し、理解を深める機会とした。
- ・わくわく食育だより5号・・・望ましい食生活の定着にむけて、今年度の食教育の取り組み
 - ・わくわく食育だより6号・・・夏休み中の生活リズムの見直し、3年生研究授業、先進校視察、食育豆知識
 - ・わくわく食育だより7号・・・食育推進事業学習会、たくみキッチン親子料理教室、生活リズム調査の報告
 - ・わくわく食育だより8号・・・土曜参観における各学年、学級の授業実践の紹介、各学年の栽培、料理体験アンケート調査の結果の報告



- ③ 学校の食に関する指導の内容と連携した、作物等の栽培、調理などの体験活動の実践を行った。
- ・各学年で実施した食育に関わる栽培等の体験活動

1年・・・さつまいも	4年・・・かぼちゃ、さつまいも、小松菜、チンゲンサイ
2年・・・ミニトマト、とうもろこし、ズッキーニ等	5年・・・バケツによる米づくり
3年・・・にんじん、大豆	6年・・・大豆、味噌づくり、大根、じゃがいも
やまなみ学級・・・小麦、さつまいも	
- ④ 食に関する学習会をテーマ1の②に記述したように、武蔵丘短期大学学長 藤沢良知先生を講師として迎え開催した。
- また、講師を招聘して、食育に関しての研修会を実施した。
- ・6月25日・・・山梨学院短期大学教授 松本晴美先生、山梨県教育庁スポーツ健康課主査 風間美智子先生、甲府市教育委員会指導主事 相河竜治先生

⑤ 食に関する先進校視察を行った。

- ・7月10日(木) 横浜市立飯島小学校視察・・・校長、教務主任、研究主任、栄養教諭
- ・10月17日(金)群馬県玉村町立玉村小学校視察・・・甲府市教育委員会指導主事、琢美小学校職員 計15名
先進的に食育推進に取り組まれている玉村町立玉村小学校の事業内容や連携のあり方を学んだ。また、施設見学や給食試食を通して効果的な指導のあり方について学んだ。

テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

① 保護者や地域の方々に学校給食を理解していただくための給食試食会や、親子料理教室を実施した。

- ・「ふだん食 たくみキッチン」 ～親子で作る、簡単おやつ～
講師:山梨学院短期大学准教授 深澤早苗先生
実習料理:「かぼちゃ白玉のミルクシロップ」「ほうとうのかりんとう」「カルシウムたっぷりお好み焼き」

・給食試食会の開催

- 5月13日 1年生保護者を対象に試食会を実施した。
- 7月 1日 琢美地区食育推進会議の方々を対象に試食会を実施した。



② 生活科や総合的な学習の時間における農業生産者や食生活改善推進委員等と連携した食農体験活動の実践を行った。

- ・6年生は、4月に地域にある味噌工場の方を招き、味噌造りについて学習するとともに、実際に工場を見学し、味噌造りに携わる人々の仕事の様子や思い 願い 等を学ぶことができた。
- ・やまなみ学級では、自分たちの栽培した小麦を地域のパン工房に持ち込み、シフォンケーキ作りを行った。
- ・4年生は、社会科や総合的な学習の時間に地域の方を招き、昔の食生活について調べ学習を行った。
- ・4年生は、地域の食生活改善推進委員の方々を招き、すいとんや白玉団子づくりを教わった。



地域の方を招いての調べ学習の様子



食生活改善推進委員の方との調理実習

③ 給食を通して、地域(郷土)・旬を大切に食の指導を栄養教諭が中心になって行った。

- ・給食時間中、随時その日の献立を活用し、旬の食物などについて実物を使いながらの指導を行った。
- ・授業実践にあたり、児童の共通体験をしている給食を教材の一部として、旬や地場産物、郷土食を意識し、展開した。



テーマ1～3に共通する具体的計画

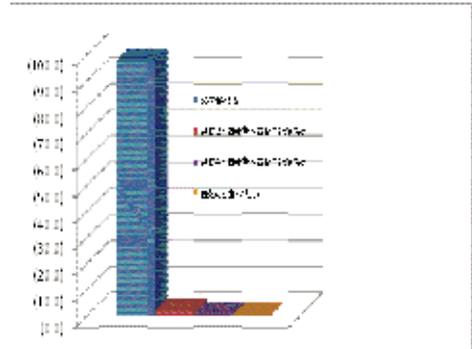
○子どもたちと保護者のアンケートから習慣づくりやお手伝い等の食生活についての結果と考察。

1. 朝食摂取状況

①必ず食べる ②週に2～3回食べないことがある ③週に4～5回食べないことがある ④ほとんど食べない

	平成19年	平成20年
①	94.4%	97.7%
②	3.4%	1.9%
③	1.3%	0.5%
④	0.8%	0.0%

・「必ず食べる」が98%と高く、前年より3%増加した。また、「ほとんど食べない」がいなくなった。朝食の効果など学習したことも関与していると思われる。

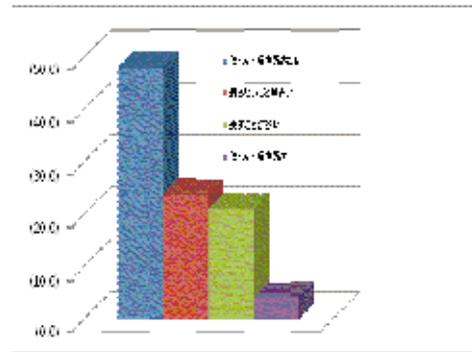


2. 学校給食残食状況

①ほとんど毎食残さない ②残さないことが多い ③残すことが多い ④ほとんど毎食残す

	平成19年	平成20年
①	31.9%	48.1%
②	34.5%	23.8%
③	24.1%	21.0%
④	9.1%	4.2%

・前年と比較して「ほとんど毎食残す」が5%減少し、「ほとんど毎食残さない」が16%増加した。食物の尊さ、働きなど学習してきたことがよく表れてきた。

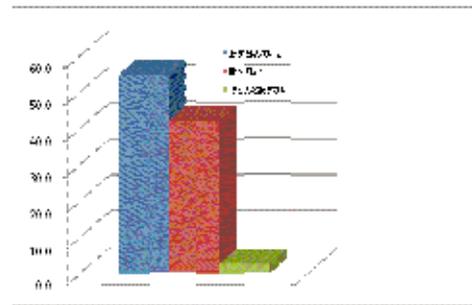


3. 配付資料への関心

①必ず読む ②時々読む ③ほとんど読まない

	平成19年	平成20年
①	50.3%	54.7%
②	46.7%	42.0%
③	3.0%	2.7%

・「必ず読んでいる」「時々読んでいる」が97%と高く、前年と比較し、「ほとんど読まない」が少なくなった。保護者の多くの関心の高さがみられる。

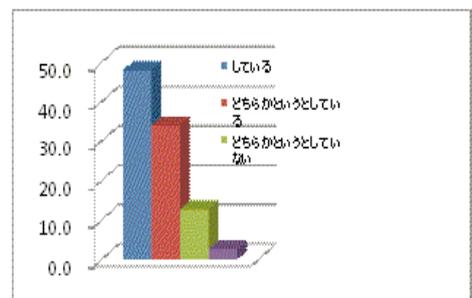


4. 食事づくり

①している ②どちらかというとしている ③どちらかというとしていない ④していない

	平成19年	平成20年
①	37.9%	48%
②	39.6%	34%
③	19.5%	12.7%
④	3.0%	2.7%

・「している」が10%増加し、「どちらかというとしている」を合わせると80%以上の子が食事作りを行っていることとなる。家庭での「食育」が実践されている証だと思ふ。



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 昨年に引き続き、指導計画にもとづいた作物の栽培活動、調理活動等の体験活動に取り組み、食育活動を推進しているが、これらの活動を通して、確実に子どもたちの食に関する興味や関心は高くなっている。また、食に対する感謝の心も芽生えてきていることが伺える。
- 本年度は、栄養教諭との連携について、どのような関わり方やあり方が効果的かを実践を通して検証しているが、体験活動や調理活動での関わりの他にも、授業でのTT指導、アドバイザーやコメンテーターとしての役割、各種資料の作成と提供等、様々な関わりの中で、食教育のコーディネーターとしての役割を果たしている。
- 効果のあった栽培体験活動・調理活動

シフォンケーキづくり



味噌造り



大豆を使った料理



米づくり



今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 前述した栄養教諭との連携のあり方を、今後の授業実践や体験活動の中で、更に明らかにしていきたいと考えている。
- 正しい食生活、食習慣を子どもたちに身につけさせるためには、学校での取り組みだけでは限界がある。家庭や地域社会との連携のあり方と、その方策について、これまでの取り組みをふり返るとともに、新たな取り組みを実践していきたい。
- 本年度は、昨年度作成した食に関する全体計画や指導計画を実践・検証しているところであるが、様々な活動を振り返る中でより効果的な指導となるよう、教育課程の位置づけを考えていきたい。

食に関する指導全体計画

甲府市立琢美小学校

□公教育の自覚

- ・日本国憲法 ・教育基本法
- ・学校教育法 ・学習指導要領

□県指導重点

- ・望ましい生活習慣の確立を目指した「健康3原則」の徹底
- ・自然との触れ合い、働く喜びを通じた豊かな心の育成
- ・学校、家庭、地域社会及び関係機関との連携

□市指導重点

- ・自己管理能力の育成を目指した健康・安全指導の推進
- ・体験的実践的活動推進
- ・家庭や地域との連携

学校教育目標

**たくましい体をつくる子
くふうし、考え、実行する子
みんなでたすけあう心やさしい子**

具体的目標

- 根気強く問題を解決していく子ども
- 自分の持ち味を生かして、主体的に学習する子ども
- 他者の立場を思いやり、協力して行動がとれる子ども
- 気持ちや考えを表現できる子ども
- 礼儀正しく、決まりや約束を守って望ましい集団生活を営める子ども

□児童の実態

- ・疲れる、だるい等疲労感を持っている児童が多い
- ・朝食欠食の児童が多い
- ・食に関する興味や関心が低い

□家庭や地域の実態

- ・宅地や商業地が多い
- ・教育や食に関する関心は高く協力的である
- ・自治会等地域の活動は盛んで学校に協力的である

□教師の思いや願い

- ・食事や健康に関心をもち、望ましい食生活を身につけてほしい

食に関する指導目標

□授業実践や食に関する様々な活動を通して、思いやる心、社会性、食と健康に対する思考力・実践力を育てる

□児童の食環境・食生活をよりよいものにしていくために、保護者や地域の方々の協力を得ながら、食の望ましいあり方を考えていく。

食に関する教育でめざす児童像

- 健康的な心の育成(感謝の気持ち)
 - ①食に携わる人に触れることから、相手を思いやる気持ち、自然を大切にしようとする気持ち、またそこから生まれる責任感や自主性などの豊かな心をもてる子ども
- 社会性の涵養(マナーやルール)
 - ②食を通して、他人と豊かな心で接する社会的態度や適応性、協調性などを身につけることのできる子ども
- 自己管理能力の育成(ヘルスプロモーション)
 - ③食事と健康の関連性に関心をもち、自己の食生活について、またそれに関わる日常生活のあり方について考えることができる子ども

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
健康的な心の育成	・作物の世話を通して、自然への親しみを持つ。 ・給食には多くの人に関わっていることを知り、感謝の気持ちを持つ。	・作物の生長を通して、自然のすばらしさを知る。 ・給食に携わる人々や食べ物になる食材に対しても感謝の気持ちを持つ。	・食農体験を通して、自然の恵みに感謝する気持ちを持つ。 ・食事ができるまでには、多くの人に関わっていることを知り、人々や食べ物に対して感謝の気持ちを持つ。
心をこめてあいさつをする。			
社会性の涵養	・給食のきまり(挨拶、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・食事のマナー(はしや食器の持ち方、姿勢など)を知り、楽しく食べる。	・楽しい話題や雰囲気作りを工夫し、楽しく食べる。
進んで仕事をやる。			
自己管理能力の育成	・朝食の大切さを知る。 ・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品を覚えることができる。	・三度の食事の大切さを知る。 ・3つの仲間、赤黄緑の食品の働きを知り、食品を分類することができる。	・規則正しい食事の大切さを理解し、自分の食事を見直す。 ・3つの仲間のバランスを考えて、組み合わせることができる。
健康的な生活をする。			

指導場面

各教科・保健との連携

- 国語・場にあった話し方聞き方
- 社会・食料と生産、流通、消費の仕組みと、そこで働く人々・地域で働く人々
- 理科・植物の成長・消化呼吸の働き
- 生活・家族の仕事・野菜作り
- 家庭・食事のマナー・家族の団らん・栄養のバランス・食品の理解
- 体育・健康の保持増進・病気の予防
- 保健室・家庭児童への啓発

給食の時間(栄養教諭との連携)

- 食前
 - ・食事の場にふさわしい環境
 - ・身支度、手洗い等の清潔
 - ・安全、清潔、能率のよい配膳
- 食中
 - ・食事のあいさつ
 - ・食事のマナー
 - ・健康によい正しい食事の摂り方
- 食後
 - ・食後の休息 ・効率的な片づけ
 - ・菌みがきの励行

特別活動(栄養教諭との連携)

- 学級活動
 - ・正しい食事の摂り方
 - ・食事と健康
- 児童会活動
 - ・給食委員会
 - ・放送委員会
 - ・保健委員会
- 学校行事

道 徳

- ・好ましい人間関係の育成
- ・基本的な生活習慣の確立
- ・感謝の気持ちの育成

総合的な学習の時間

- 食に関する単元を設定し、体験活動を通して課題解決に取り組む。

学校・家庭・地域との連携

- 正しい食習慣や食生活を家庭に啓発するため、家庭・地域との連携を図る
- 地域・校医・保護者・関係機関との連携
 - ・自治会、食改推との連携
 - ・給食便りの発行 ・アンケートの実施
 - ・給食試食会 ・食をテーマとした学級懇談会

個別指導

- 一人一人の食の実態に応じたきめ細かな指導を実施し、望ましい生活習慣の確立を図る
 - ・栄養教諭
 - ・養護教諭

第4学年総合的な学習の時間学習活動案

授業者 教諭 萱沼 久美
栄養教諭 半田 裕子

1. 単元名 昔の食生活について調べよう～タイムスリップ食べ物博士～

2. 単元について

現代社会では、あらゆる食べ物をいつでもどこでも簡単に手に入れることができ、また冷凍食品のように温めるだけで調理できるような食材が増えてきている。速く手軽にということを考えてきたことで、私たちは大切な食への感謝の念や食からいただく豊かさを忘れてしまっているように思われる。昔の人々は時間や手間をかけながら、様々な食べ物をつくりあげていた。現代のように様々な便利な機械もなく、多くの苦労があっただろうが、その分知恵を出しながら生活していた。その食生活の営みの中に、現代の生活では、なかなか手に入れにくくなった食の豊かさがあるのだと思う。生まれたときから現代社会に慣れ親しんだ子どもたちにとって、昔の人たちのそのような食生活を知ることが、自分たちの食生活を振り返るよい機会となることだろう。

両親とも働く家庭が増え、また子どもたち自身も様々な習い事や塾などへ通っており、大人も子どもも忙しくなり家族団らんでゆっくり食事をしたり、親子で一緒に料理づくりをしたりするなどの食にかける時間はだんだん少なくなっている。また、子どもたちは、お金を持って店へ行けば、自分の食べたいものを簡単に手にいれることができ、食べ物がどのようにしてでき、自分たちの手に届くまでにどのような苦労があるのかあまり知らない。このような生活の中で、子どもたちの食への感謝の念は薄くなっているように思われる。給食の様子を見ても、自分の苦手な食べ物は、手をつけないで残している子どもが多く見られる。今回昔の食生活に視点をあて調べることにより、子どもたちは、昔の人々の様々な苦労を知り、そこに息づく多くの知恵を見つけることができるであろう。また、人々の食生活の根底にある食への感謝の念や食の豊かさにも触れることができるはずだ。それらを通して子どもたちの中に食に対する感謝の気持ちを少しでも育んでいきたい。また、自分たちの食生活とくらべながら、昔の食生活のよさに触れ、自分自身の食生活を見つめ直し、実践できる態度を養いたい。

指導にあたっては、栄養教諭には、食の栄養や調理法の指導だけでなく調べ学習における調べ方やまとめ方についての支援や資料提供など、子どもたちの学習がより深いものとなるよう、専門的な知識を生かした支援を随時行ってもらおう。そして、発表の場では、コメンテーターとして子どもたちの発表内容に対しての専門的な見地にたったアドバイスをしてもらおう。

課題設定では社会科の「昔の暮らしとまちづくり」でゲストティーチャーとして地域の方に来ていただき、琢美地区の昔の様子を話していただいたり、昔の道具を実際に使ったりするなどの共通の体験活動を行って、意識づけを図りたい。総合的な学習の時間では、その学習を思い出しながら、食生活に視点を絞って個人でウェビングを行い、似た課題を持つ同士でグループを作っていきたい。

調べる活動については、民俗資料館の見学を行い、実際に昔の道具を見たり、触れたりする機会を設けた。また城東病院のお年寄りや保護者・祖父母・読み聞かせのボランティアの方々へのインタビューなどを行い、さらには図書館やインターネットを使って調べる内容を深めていきたい。調べたことは既習の学習を生かし、グループごとにまとめさせたい。このような活動を通して、昔と今の違いに気づかせていきたい。

生活に生かす活動では、「栄養満点昔食づくり」と題し、地域の食推の方々には指導してもらい、昔食づくり（すいとんや昔のおやつづくりなど）を行い、今後の料理づくりの関心を高めたい。そして、授業参観には保護者に、発表を聞いてもらう会を計画し、保護者

の食への意識を高めていきたい。さらに、自分たちの調べたことを全校に発信する場として昔食資料館づくりを行い、学習したことのまとめを行っていく。

3. 単元の目標

- 昔の食生活を調べたり、栽培活動や調理体験などを通して、食に関する感謝の気持ちを持つことができる。
- 昔の食生活について自分なりの課題を持ち、調べ学習を通して、わかったことを友だちと協力して発表することができる。
- 昔の食生活のよさを知り、自分の食生活について考えることができる。

4. 児童の実態

何事にも前向きに取り組む38名の明るく元気いっぱいの子どもたちである。自分たちで考え、行動するような活動を好み、興味・関心に合った目標を設定すると、その目標にむけて努力することができる。ただ意欲面や学習面での個人差がとても大きいので、調べ学習では、個の指導がとても重要になってくると思われる。

子どもたちは給食をととても楽しみにしており、毎日のように、給食の時間が近づくと、メニューを友達と一緒にのぞき込み、献立を確認している。給食もとてもよく食べる子どもたちであり、いつも給食の残量は少ない。ただ、一人ひとりに目をむけると、毎日のように完食しておかわりをする子どもも多くいるが、反対に好き嫌いがあり、いつも給食を残す子どもも多くいる。

昨年度は食品工場の見学を行い、見学を通して学んだことをグループで発表した。またさつまいもやかぼちゃを育て、収穫後栄養教諭の指導のもとカレーづくりを行い、自分たちの育てた野菜を食べる体験もした。

今年度は、かぼちゃを育て、かぼちゃについての調べ学習を行いかぼちゃ新聞をつくった。また、「バランスよく食べよう」や「豆を食べよう」の食育の授業を栄養教諭と行った。食育の授業・毎月行われる食育指導・食農体験・日々の給食指導などにより子どもたちの食に関する興味はとても高まっている。さらに、食育の授業では、学校で学習したことを家庭に報告するプリントを配布した。プリントには子どもを励ます言葉や家庭の食生活を振り返る言葉などが書かれており、保護者の関心も高くなっている。

食に関するアンケート結果（対象4年生38人）より

学校給食のアンケートでは、給食の時間が楽しいと答えた子どもは、38人中36人で全体の95%である。お残しゼロ運動では、ほとんどお残しがないという結果も出した。毎日朝食を必ず食べると答えた児童は35人（92%）であった。

給食を残さないようにするにはどうしたらよいかの質問に、嫌いなものをなくすようにするという前向きな意見を書いた児童も何人かいた。嫌いな食べ物は、なすが19人（50%）セロリが17人（47%）であった。嫌いな食べ物が出たときはどうするかに対して、食べないと答えた児童は7人であった。

昨年度より「感謝」の部分に視点をあて、指導した結果、食事の時あいさつをしていると答えた児童は36人（95%）であり、前年度より8%増えた。また、家の食事づくりの参加では、する児童が34人（90%）と34%増加し、感謝の心が育ち始めている。

5 指導計画（総18時間）

	活動内容	支援者	家庭との連携	時数
問題に気づく	(社会科) ○琢美地区の昔の様子を聞く。	地域のゲストティーチャー		(4)

	<p>○昔の道具を体験する。 石うす・かつおぶし削りなど</p> <p>○くらしはどうかわってきたか知る。</p>	栄養教諭	昔の道具集めへの協力	
課題設定	<p>○昔の食生活について家でインタビューしてきたことをまとめる。</p> <p>○ウェビングを行い、課題設定をする。</p> <p>(学級活動)</p> <p>○自分たちの食生活について振り返る。</p> <p>○学習計画を立てる。(グループ活動)</p> <p>THE 昔の道具グループ THE 昔の大切な食事グループ わくわく昔の給食グループ グルメーズ おかし調べ探してい団 昔の料理名人グループ</p>	栄養教諭	インタビュー協力	3
				(1)
課題追究	<p>○調べ学習を行う。(グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料館見学 ・城東病院訪問インタビュー ・読み聞かせボランティアインタビュー ・インターネット ・図書館活用 ・体験活動 <p>○グループごとに調べたことを書いてまとめる。</p> <p>○発表交流会(本時)で、互いに発表についてアドバイスし合う。</p>	栄養教諭	調べ学習協力	7
				2
				2(本時)
生活に生かす	<p>○栄養満点昔食づくりを行う。</p> <p>○昔の食生活発表会で、保護者に学習したことを伝える。</p>	<p>栄養教諭</p> <p>地域の食推の方々</p>	授業参観	4
まとめる	<p>○昔食資料館づくりを行い、全校に学習したことを発信する。</p> <p>○学習の振り返りを行う。</p>			2

6. 本時の展開

- (1) 日時 平成20年10月29日(水)
- (2) 場所 琢美小学校 4年1組 教室
- (3) 題材 発表交流会をしよう(14/20)
- (4) ねらい

- 昔の食生活について調べたことをわかりやすく発表することができる。
- 発表を聞き、感想の交流を行う中で、昔の食生活について理解を深めることができる。

(5) 展開

過程	学習活動・内容	教師の支援	評価	備考
導入	1 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">昔の食生活について調べたことを発表しよう。</div>	・全体の進行がわかるようにグループ名と新聞名を掲示する。		
展開	2 調べたことをグループごとに発表して、調べたことを共有し、感想を交流する。 THE 昔の道具グループ THE 昔の食事グループ わくわく昔の給食グループ グルメーズ おかし調べ探してい団 昔の料理名人グループ (3グループが当日発表する)	・発表の仕方や発表時間などのルールを確認する。 ・質問や意見が出しやすくなるように聞き取りメモを用意しておく。 ・発表をわかりやすくするために、発表方法・掲示資料などを工夫するよう助言する。 ・発表がおわったグループごとに栄養教諭がアドバイスをを行う。	・わかりやすく発表しているか。(観察) ・発表を聞き、質問や意見を言うことができたか。(観察)	聞き取りメモ
まとめ	3 発表全体を通して、昔の食生活についてわかったことや感じたことを発表する。 ○昔の人々の食生活には、たくさんの苦労や知恵があるのだなあ ○昔の食生活にはいいところがあるのだなあ ○自分も昔の料理をつくってみたいなあ	・前時の3つの発表も関連させて考えさせる。 ・ワークシートに感想を書きまとめさせる。 ・自分の考えの変化に気づいたり、友だちのよさを認めたりすることができる子どもの意見を意図的に指名する。	・昔の食生活について理解が深まったか。	ワークシート

(6) 評価

- 昔の食生活について調べたことをわかりやすく発表できたか。
- 発表をしっかりと聞き、質問や意見を出すことができたか。
- 昔の食生活について理解が深まったか。

取り組みの様子

〈栽培活動〉



さつまいも



なす



バケツ稲

〈地域との連携〉

〈料理体験活動〉



研究授業



栄養教諭を中核として



すいとんづくり



学校開放授業参観



親子料理教室



ほうとうづくり

〈広報活動〉

